

中国地域経済の育成に取り組む双日ビジネス

中国の経済政策が転換点を迎える中、その変化を的確にとらえ、中国のニーズを探りながら事業展開を図る双日の最近の投資事例について、小林克彦執行役員中国副総代表ならびに上田学経営企画部長にお話を伺った。

• 中国インフラ整備・環境問題に対応する排水管用パイプの製造・販売事業に進出

中国政府が、東北部、中西部に経済の発展をシフトさせていこうとしている中、国家重要プロジェクトとして位置付けられ、アジア最大規模の産業都市計画が進められる東北部の河北省唐山市の曹妃甸工業区において、排水管用パイプの製造・販売の事業に進出した。

中国の水処理分野の代表的な研究機関である黒龍江省ハルビン工業大学が出資するハルビン工業大学星河実業有限公司と共同で、唐山曹妃甸双星複合管道有限公司を設立。双日の出資比率は61%で、総事業費は約10億円、同工業区に進出した外資企業としては第1号となる。

同公司以製造するパイプは、輸出向けではなく、中国国内に販売していくもので、中国のインフラ整備とともに、国内市場の育成に貢献する。同パイプは、金属プラスチック複合の無圧管で中国側技術により製造されるもので、周りを金属コイルで補強することにより十分な強度を保ちながら、原料であるポリエチレンの使用量を大幅に削減し、軽量で柔軟性に優れ、製造のコストダウンを図ることができる。また、中国で深刻な問題となっている水環境汚染や水不足の整備計画に大きく貢献できる製品としても注目され、現在、受注に対して生産が追いつかない状況にあるが、2009年までに製造設備を拡大し、年間約2万トンの生産をめざす。

同工業区は、中国政府から環境配慮型循環経済モデル都市に指定されており、環境関連のプロジェクトが多数検討されている。双日では、この事業を足掛かりに、水処理関連事業など他のプロジェクトへの参画もめざしていくとのことであった。



曹妃甸工業区で製造する金属プラスチック複合パイプ

• 伸びる中国ポテトチップス市場で、材料製造に参入

また、双日では、北東部の大農作地帯である黒龍江省にポテトチップスの中間材料となるポテトフレークの製造販売会社を現地の農場と共同で設立した。食の多様化が進む中国では、ポテトチップスの消費量がこの10年で約3倍、年10%程度の伸び率で拡大しており、今後とも、拡大が期待できる中国市場に着目し、材料製造に参入。新設会社名は、黒龍江北大荒馬鈴薯全粉有限公司で資本金は約17億円、双日および双日（中国）有限公司が25%、黒龍江省農墾総局チチハル分局克山農場などが75%を出資する。生産規模は、当初年間6,000トン（原料換算33,000トン）で、4年後には生産設備を増強して倍増する計画ということであった。



克山農場のジャガイモの種芋培養センター